



東援だより

vol. 36
2021.09

理念

私たちは、高い志をもち、時代の要請に基づき先駆的に社会福祉の充実を図るため、利他の精神をもって活力ある経営を行い、社会福祉法人としての責務を果たし、社会に貢献してまいります。



特集 支援の窓から

『みんなの笑顔』

特集

もくじ

理事長挨拶	1	委員会活動報告	6
東援ニュース	2・3	コロナに負けない!	7
特集：支援の窓から	4・5	支援マテリアル紹介	8
		東援歳時記	8



就任挨拶

理事長 中村 明彦

令和3年7月6日の臨時理事会において、理事長を拝命致しました中村明彦でございます。前山口桂造理事長の偉大な功績の後を受け、責任の重さに身の引き締まる思いを致しております。

理事長交代とともに役員も一新し、新たな体制で社会に貢献できる社会福祉法人東京援護協会を運営して参る所存でございます。

先般、当法人が運営している全ての施設を視察致しました。どの施設においても、職員の皆さんが利用者様に対して献身的に尽くし

ている姿を目にして、法人の更なる発展を確信致し、大変心強く、嬉しく思いました。

今後も福祉のあるべき姿を常に自問しながら「不易流行」（本質を変えずに時代に併せた変化を重ねて行く事）を実践して参りたいと存じます。

皆様方のご理解とご協力を頂きながら、精一杯東京援護協会に尽くして参りますので、宜しくお願い申し上げます、理事長就任の挨拶と致します。

NEWS 1

理事長をはじめ役員が交代しました

令和3年6月29日の定時評議員会で、任期満了に伴う理事の改選が行われ、ガバナンスの確立に向けた業務執行体制の拡充、及び世代交代を視野に入れた人選を行い、再任理事2名、新任理事5名が選任されました。

また、7月6日に新体制による臨時理事会を開催し、新理事長及び業務執行理事が選任され、直ちに就任致しましたので、お知らせいたします。

役員の新体制は次の通りとなります。

理 事 長	中村 明彦	(新任)
副理事長	菅田 正明	(新任)
常務理事(本部担当)	山口 悟	(新任)
常務理事(施設担当)	中田 圭太郎	(新任)
理 事	山口 博紀	(新任)
//	服部 清道	(再任)
//	中山 眞知子	(再任)
監 事	橋本 和夫	(再任)
//	笠原 重厚	(新任)



理事長職退任にあたり

山口 桂造

私が理事長を託された昭和50年当時の法人は、重度身体障害者授産施設、町田荘、練馬更生園の2施設を運営するのみでした。時代は高度経済成長期で、みなが同じ方向を向いて進む価値観が中心の時代でした。

その後、多くの区と関係ができ、現在法人の施設は17を数え、事業内容も多岐に渡っています。時代も多様性や共生を前提とする社会になりました。

そこで、こうした時代の変化をとらえ、より広く様々な知見を取り入れて、現代的なものの見方の出来る人を中心に法人を運営してほしいと願って、今般理事長職を退任することといたしました。

理事長になったばかりの頃、練馬更生園に入所されていた園生に、上肢の欠損にもかかわらず、足の指を使って色々な授産の仕事をする方がいて、目を見張る驚きでした。

福祉の主人公は利用者です。生き方を決めるのは利用者です。私たちはその決定を支えるのが仕事で、このことはどれ程時代を経ても変わらぬ価値観だと思います。この「時代」によって揺るがない価値観と、時代の要請に基づく柔軟な姿勢が、東京援護協会の命だと信じています。

このことを法人の皆さんに託して、退任の辞とさせていただきます。



NEWS 2

法人本部が上野に移転しました

令和3年4月1日に東京援護協会の本部が神田から上野に移転しました。

新本部はJR上野駅入谷改札から徒歩3分、東京メトロ上野駅2番出口からは徒歩30秒の好立地です。赤レンガの建物には「東援館」の看板があり、1階に最大30名まで収容できる会議室、2階には事務室があります。



〒110-0015
東京都台東区東上野3-18-11
TEL : 03-5834-3841

NEWS 3

豊島寮から板橋寮へ(自立支援センター)

令和3年3月22日に自立支援センター『板橋寮』が開設しました。『豊島寮』は閉所し、その機能を板橋寮へ移しました。

自立支援センターは23区を5ブロックに分け、ブロックを構成する各区が5年ごとに順次交替制で設置しています。板橋寮は特別区内で路上生活を余儀なくされている方や、そうした恐れのある方に対して、就労による自立と社会生活に向けた支援を提供する入所型施設です。

地域の皆様にも親しまれる施設運営に努め、一層の自立の向上に向けて事業に取り組んでまいります。



じゃがバターパーティー

町田荘

町田荘の中庭には、ちょっとした菜園があります。

今年の春頃、「今度じゃがいもを植えてみたい」と職員から要望があり、早速種芋を買ってきて植えることになりました。というのも、野菜類を全く口にしない利用者の方に野菜を食べていただくにはどうしたらいいだろうかと、会議で話しあっていたからです。そこで、野菜などを育てていくことに関わっていただき、収穫できた作物を美味しくいただく機会を設けられないかと考え、取り組みました。



3月に、種芋を植えました。車椅子の方が畑仕事をするのはなかなか大変です。職員を中心に植え付けや芽かきなど行いました。



6月になり、収穫の時期となりました。この時期に採れるのは、「新じゃが」です。収穫時には、車椅子でも畑の奥まで入って掘り起こせるように、ブロックを敷き詰めて行いました。収穫は20kgくらいありました。どうしても美味しく食べられるのか、栄養士とアイデアを出し合いました。



「じゃがバターをおやつにしてはどうでしょうか」と案が出ました。

収穫するじゃがいもは、ホクホク食感が特徴の「男爵いも」なので、ピッタリな調理方法でした。食べる日を7月に予定したので、約1ヶ月間芽が出ないようにするため、保管方法を工夫しました。



7月中旬、「じゃがバターパーティー」の日がやってきました。前日にはみんなでじゃがいもの下洗いをして、厨房に調理をお願いしました。利用者が食べやすい大きさにカットして、ホットプレートでバターを絡ませたら、「ジャーマンポテト」のような見た目になってしまいました。しかし食堂中に漂う濃厚なバターの香りが食欲をそそり、出来たてホクホクのじゃがバターは、バターが



染み込みほどよい塩味で、最高に美味しく、早く次の一口が欲しくなってしまいます。利用者の方たちもあちらこちらで思わずニッコリと笑みがこぼれていました。「じゃがバターパーティー」はみんなで楽しくいただけたことも含め、作物を育てて美味しくいただく「食育」にもなったかなと思いました。

東京援護協会のそれぞれの施設では、施設の特性に応じて利用者の皆さんにとって何が相応しい支援が日々手さぐりしながら取り組んでいます。それはコロナ禍においても変わりません。ここでは2つの施設の利用者支援の取り組みをご紹介します。

清掃活動 東が丘荘



東が丘荘では、利用者の皆さんに引きこもり防止や地域住民としての意識を持って地域に貢献するため、近隣の清掃やゴミ拾いを行ってもらっています。

現在、活動する際にはコロナ感染予防対策として、人と人との間隔を空け、全員がマスクと手袋を着用して、積極的に清掃活動に取り組んでいます。



歩道にはポイ捨てされた空き缶や煙草の吸殻や、秋口には大量に舞い散った落ち葉など、毎回ゴミ袋に大量のゴミが集まります。

近隣には小学校や公園があり通行する方や地域の方より感謝の言葉をいただき、利用者さんの励みとなっています。



また、春にはうぐいすの鳴き声に励まされ、夏には降り注ぐような蝉の鳴き声を聞きながら、季節を直に感じ体を動かすことで、清掃後の清々しい気持ちを味わっていただき、達成感や美化意識を高めることに繋がっています。



参加された方同士で声を掛け合いながら和気あいあいと活動され、施設に戻ってきた時には、「ジムに行った後みたい」とおっしゃるぐらい汗をかかれています。「少しでも役に立ちたいから参加します」といった声や、「あそこの汚れているところが気になるのよ」といった声も聞かれ、いずれ地域で生活していくための支援として役立っている大切な活動となっています。



危機管理・健康委員会



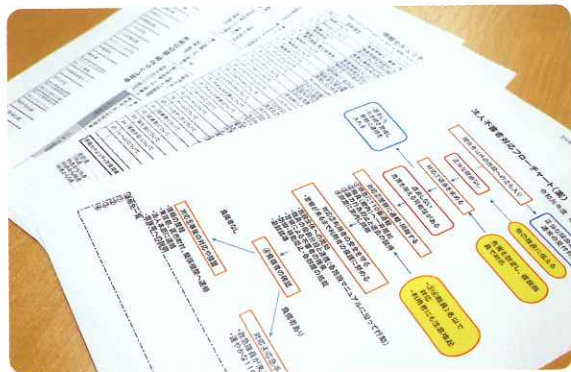
本日は、危機管理・健康委員会の委員長、川原次長にお話を伺います。

Q：法人の危機管理体制はどのようになっていますか。

A：法人の危機管理体制は、平成19年に各施設のリスクマネジメント担当で設置された「リスクマネージャー会議」が始まりです。平成30年度からは「法人防災担当」と一つとなり「危機管理会議」となりました。令和元年度にはストレスチェックや職場環境改善のための各種調査、労災防止のため衛生管理者・推進者会議等を担っていた「環境改善・健康推進担当」とあわせて「危機管理・衛生委員会」となり、現在は「危機管理・健康委員会」として法人の危機管理を所掌しています。

私は最初のリスクマネジメント会議から関わらせていただいています。

Q：今まで、これらの組織ではどのような取り組みが行われてきたのでしょうか。



A：事故の予防と、事故発生時に被害を最小限にとどめることを目的に、各施設におけるリスクマネジメント体制の見直し・再構築、法人全職員のリスクマネジメントに関する意識向上、施設間ネットワークの充実などの活動を重ねてきました。これまでに、15項目について書面にまとめ作成してきました。報告様式等の整備や、ヒヤリハット書式の統一などです。また、災害については、標準防災備蓄物品リストや各施設の被害想定一覧など、リスクは非常に多岐多様にわたりますので、毎年度タイムリーなテーマを設定し、分科会に分かれて課題解決に取り組んできました。

Q：コロナ禍の中で、委員会ではどのようなことに取り組んでいますか。

A：感染症拡大に伴い、各施設の衛生用品備蓄状況調査等を繰り返し実施し、物品が不足する施設への応援調整、予防対策やマニュアルに関する情報交換、発生施設からの対応事例発表や意見交換による各施設の感染防止対策強化などに取り組んできました。今年度は各施設の感染症BCPの策定のための情報交換、施設間の連携及び法人全体の協力体制を検討していきます。

Q：今後、委員会での検討課題としては、どのような取り組みがありますか。

A：異常気象により近年被害が多発している水害への対策は、令和2年度に作成・確認した水害被害想定(法人7施設が浸水被害地域に立地)に基づく緊急時の施設間の連携等について検討します。また、地震対策や福祉避難所に関する情報交換等、法人全体の防災対策の強化を図ることを活動目標としています。

さらに、各施設の事故、ヒヤリハット、苦情等について情報交換と情報共有により、リスクマネジメントの強化、労働実態調査等の調査やストレスチェック等により、職場環境改善や、メンタルヘルス対策の充実を推進していきます。

今後も、時宜に相応しい検討課題を設定し、あらゆるリスクに備えていくため、施設間ネットワークを強化していきます。そして、利用者・入所者の安全・安心な施設利用の実現と職員健康で安全な職場環境づくりのため、委員会メンバー総力で取り組んでいきます。



ありがとうございました。

工夫して 支援しています!!



新消毒装置が活躍!!

三園福祉園

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、電動ジェット噴霧器を使い『安定型次亜塩素酸ナトリウム』を散布し消毒をしています。

名前が似ている「次亜塩素酸水」「次亜塩素酸ナトリウム」とは成分の「次亜塩素酸」は同じですが、製造方法や、pH(酸性かアルカリ性を決める値)が全く異なります。市販の次亜塩素酸水(酸性電解水)が弱酸性、「次亜塩素酸ナトリウム」は強アルカリ性なのに対し、『安定型次亜塩素酸ナトリウム』は弱アルカリ性(pH10程度)です。反応後は水とごく微量の塩(塩化ナトリウム)に分解するため、有害な物質が発生せず、塩素特有の臭いや刺激も少なく誰でも安心して使えるということです。

三園福祉園では毎日、バスの車内、活動室、食堂等この噴霧器で散布しています。



LET'Sリモート - 様々な活動に使ってます -

田柄福祉園

今年度田柄福祉園ではソーシャルディスタンスを保ちつつも一体感を味わうためにリモートを活用した活動や行事を開催することにしました。

リモートを使用した行事の第1号は芸術鑑賞会。初のリモートでのパフォーマンスでしたが、多くの利用者さんがマスク越しにでもわかるくらいの笑顔を見せていました。大きな声で笑ったり声援を送りたいところをグッと我慢し、うちにメッセージを書いてカメラ越しに伝えたりと感染症対策してくれました。

その後、納涼祭(ひまわりフェスタ)もリモートを使用して開催し、ご家族が自宅や外出先でも参加できるようリモートでの活動公開を続けて行っています。大変な時期ですが、今だからできる事や新たなチャレンジを続け、前向きに今を楽しんでいきたいと思っています。



支援マテリアル紹介

炭酸泉

【人工炭酸泉生成装置】

期待される効果

- 足浴に使う事で加齢臭の消臭効果、水虫や褥瘡の殺菌効果、体が温まり夜熟睡できる。
- 足の毛細血管を拡張し、足梗塞、壊死や下肢切断の予防になる、など。

町田荘では2019年に「人工炭酸泉生成装置」を導入しました。足浴や便秘解消の為に飲水で使用しています。

足浴されている方と毎日飲まれる方お二人に、感想を聞いてみました！



いいよ、サッパリするな。水虫菌もいなくなったらいいし、夜もよく眠れるよ！

毎日足浴されているKさん



炭酸のシュワシュワが弱いけど、水道の水より美味しいよ！飲み始めて、お通じもよくなったみたい。

ペットボトルに入れて毎日飲まれるHさん



東援歳時記

9丁目の仲間アートミュージアム

大泉障害者支援ホーム

大泉障害者支援ホームは現在建て替え工事中(2022.3.31 竣工予定)の「仮囲い」を『9丁目の仲間アートミュージアム』と題して「街の美術館」とするプロジェクトを建築会社のご協力で実施しました。同じ9丁目の仲間である練馬福祉園、大泉特別支援学校を含め、3つの施設の利用者、生徒の方々の7作品を展示。地域の方が足を止め作品を見てくださり、9丁目で生活する私たちのことを知って頂くきっかけになったのではないかと感じました。

また、このミュージアムが建設を請け負った会社のESG活動の、最優秀賞を獲得したとのこと。新たな大泉障害者支援ホームの幕開けに花を添えるプロジェクトとなりました。



編集後記

先月には、東京オリンピックが開催され、それぞれの競技で、選手が感動を届けてくれました。そして、先日までパラリンピックも開催されていました。様々な障害を持ちながら参加された選手の活躍に勇気をいただきました。

また、長期化した新型コロナウイルスの感染症拡大防止については、ワクチン接種が進んで一日も早く収束することを心から願っています。

東京援護協会では、このたび理事長をはじめ新たな役員が就任されました。気持ちを新たに、法人理念である「利他の精神」を持って、広報委員一同法人の「いま」と「これから」をお届けできるよう努めてまいります。



東援だより 第36号

発行日 令和3年9月15日

発行者 中村 明彦

社会福祉法人 東京援護協会

東京都台東区東上野3-18-11